

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サポートセンター アジト			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 1日 ～ R7年 12月 10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	R7年 1月 1日 ～ R7年 12月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 12月 10日 ～ R7年 12月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●障がいの種類に問わず、色んなお子さんを受け入れる。 ・そのことによって、1人ひとりの「やってみたい！」に寄り添って、みんなで考えることができる。そのような環境があるから、子どもたちも適応能力が身に着く。	・1人ひとりの声をしっかり傾聴する。 ・子ども1人ひとりの「やってみたい！」＝児童の個々の世界観と一緒に楽しむことを心がけている。 ・実際、児童の世界観を共有した時に、喜怒哀楽の感情表現も共有することができている。	・今後も児童1人ひとりの「やってみたい！」にお付き合いしていく。その延長線として、経験を積み重ねて自信に繋がりを、自己肯定感に繋がれば、なおよし。
2	●家庭・関係機関との連携 ・密な連携、情報共有を心がけている。	・学校と家庭と密な連携を図ることにより、児童の困り感にいち早くアプローチをかけることができる。 ・そのことにより情緒の安定・安心安全な環境の中で療育ができるように配慮ができる。	・保護者交流会の充実を図る。また、長期休暇には学校の先生に夏休みのプログラムを配布し、「いつでも事業所にいらしてください」のスタンスを取っている。今後も風通しの良い事業所を目指して継続し、家庭と学校・関係機関との連携を図っていく。
3	●外活動が多い ・「地域で生きていく力」を身に着けるためのカリキュラムが豊富にある。	・例えば多目的トイレが必要な児童には、公共施設等において、どんなトイレかな？どのように使うのかな？を含め、実体験をしてもらうことが第一と考えている。 ・自立に向けてのカリキュラムでは、店員とのやりとり・挨拶、バスの乗り方、待ち合わせの時間を見越しての行動、時間の概念を育むような体験を多く設けている。	・その都度ライフステージに合わせた「必要な支援」を今後も意識して、幅広い活動・体験の場を提供する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●福祉経験(職員)が0からスタートしたスタッフがほとんど。 ・だからこそ経験者が密にサポートに入り、コミュニケーションを重要視している。	・専門分野・専門的支援の必要性、その意味合いを学ぶ機会が必要と考える。	・研修制度の充実。月1度各自オンライン研修に参加する。 ・月2～3回の社内研修にて、オンライン研修の振り返り、利用者のケース会議・検討会、利用者の情報共有なども設けている。
2	●バリアフリーの構造でない。	・今後もバリアフリーの導入予定は、今のところなし。 - 理由：見学時にハード面も見てもらっている。その上で、活動内容を優先順位として選んでいただいた。だからこそ、車いすから降りている状態の利用者さんそれぞれの目線・意見を、同じ目線でキャッチしていきたい。発信力の学びの場として活かす。	・バリアフリーの構造はないが、個々に応じた代替の器具を使用している。今後も個々に応じた代替器具を、利用者・保護者と一緒に考案し導入していく。
3			